

子どもを取り巻く環境を考えよう

—地域の子育て支援に対する理解を深めよう—

現代の社会においては少子化が進んできている。また家庭や家族の基本的な機能が失われつつある。そのような中で、家族や周囲の人々との人間関係の大切さを学び、よりよい生活を主体的に工夫できる能力や態度を養う学習は、実感を伴うような展開を工夫し、より充実する必要がある。そこで地域の幼稚園や保育園との交流を図り、生徒が幼児に関心をもち、幼児に対する理解と関心を深め、適切にかかわることができるようにしたいと考えた。また、子どもは親や家族だけで育てるのではなく、社会全体で支え、育てるものであるということに気づくような学習にしたいと考えた。

1. 題材の目標

- ・ 幼児を取り巻く環境と幼児とのふれあいについて関心をもち、主体的に学習活動に取り組み、幼児と適切に関わろうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・ 幼児を取り巻く環境と幼児とのふれあいについて見直し、課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫する。 (創造・工夫)
- ・ 幼児の生活に役立つものを使って、幼児とのふれあいが進んでいき、また、幼児を取り巻く環境を考えて地域の子育てマップをつくることできる。 (技能)
- ・ 幼児とのかかわり方に関する基礎的な知識を身につけ、地域の子育てマップについて理解できる。 (知識・理解)

2. 生徒の実態

家族の中に幼児がいる生徒は10%であり、90%の生徒は身近に幼児がいない生活を送っている。そのため、幼児との関わりも80%近くの生徒が「ない」と答えている。幼児との具体的な関わりが生活の中にないため、幼児と一緒に遊ぶためのおもちゃをつくり、地域の幼稚園・保育園に訪問した。その中で、もともと幼児に持っていたイメージが、幼児に関わることにより変わったと答えた生徒が60%近くいた。わがまま・うるさい・すぐ泣くというマイナスイメージが、素直・友達のことも考えている・かわいいと、プラスのイメージに変わったと答えた生徒も少なくない。幼児の素直なまなざしや態度に、中学生も心を開いて接

している姿も見られた。

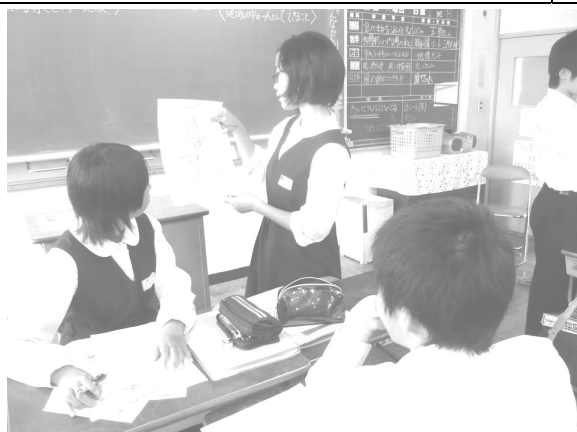
また、社会の中で次々に起きている、子どもにまつわる事件や事故に対しても調べ学習を通して、なぜ起きてしまうのだろうか、防ぐ方法はなかったのか、と考えを深めることができた。しかし、子育ては誰がする？と聞いたとき、多くの生徒が母親を始めとする、「親」と答えた。そこで、子育て真っ最中のお母さんに子育て奮闘記を語ってもらい、親だけで子育てをする大変さを生徒たちに考えさせた。

話の中で、周りの人のサポートや児童館などにも触れていたため、子育てに対する考えが少し広がりを見せた。本時で取り上げる「地域の子育てマップ」は幼児の視点とその保護者の視点も考えながら、子どもが安全に遊ぶためには、保護者が安心して連れていくことができるなども考え、地域の子育て支援に対する関心を深め、地域の中の1人として制作に取り組んで欲しい。



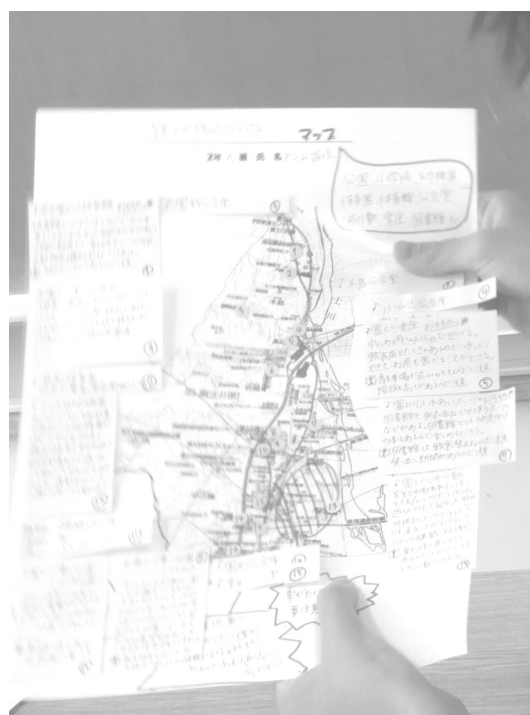
3. 指導計画

授業内容	時数
子どもを取り巻く環境を考えよう① 子どもたちが安全に暮らし、健全に成長できる社会か？ 子どもにまつわる事件や事故を調べてみよう。 大阪でおきた事件について考えてみよう。	1 1
子どもを取り巻く環境を考えよう② 子どもの成長を支える施設（幼稚園・保育園）を訪問しよう。 幼稚園や保育園の幼児たちとふれあおう。	2
子どもを取り巻く環境を考えよう③ 幼稚園や保育園の幼児とのふれあい体験をまとめよう。 子育て真っ最中のお母さんの子育て奮闘記を聞いてみよう。 ※ゲストティーチャー	1 1
子どもを取り巻く環境を考えよう④ 地域の子育てマップをつくろう。	3
子どもを取り巻く環境を考えよう⑤ 地域の子育てマップの発表をしよう。 (本時) ※ゲストティーチャー	1



4. 授業過程

時間	学習活動
5分	地域の子育てマップの発表準備をしよう。 発表グループの確認と発表の仕方の確認
20分	地域の子育てマップの発表をしよう。 一人5分以内。 感想を伝えよう。
25分	自分たちの地域が子育てしやすい地域か考えてみよう。 調査したことや発表で聞いたことをもとに考えてみよう。 ※ 地域の子育て支援課の方から話を聞く。



参考文献・参考Webページなど

・「AVANCE 家庭科教育実践講座」, ニチブン